

2010年(平成22年)6月30日(水曜日) 富山新聞

～社説～

美肌効果で全国区めざせ

ハトムギ新飲料

J A氷見市と金大が共同研究を進めてきたハトムギエキスの健康飲料が、北陸を皮切りに売り出された。ハトムギの美肌効果に着目して臨床試験を重ねた自信作であり、今や年間200万本を売り上げるヒット商品になった「氷見はとむぎ茶」に続く氷見ブランドとして、全国区の知名度を得たい。そのためにも、地元を足場にしながら、大都市圏で試飲の機会を増やすなどしてPRに努めてほしい。

この健康飲料は、金大大学院医学系研究科の鈴木信孝特任教授と金大薬学部の太田富久教授が、ハトムギの有効成分を抽出して開発したハトムギCRDエキスを中心に、ビタミンCやビタミンB6など、皮膚や粘膜の健康を保つ栄養素を配合している。臨床実験では、参加した女性16人のうち12人が「肌がしっとりした」などの報告を寄せた。

氷見や富山、金沢などで始まった販売キャンペーンでは、まろやかな飲み心地が好評で、年齢を問わず美肌への関心が高まっている折から、地域の別なく売れ筋となる手ごたえは十分あろう。

氷見はとむぎ茶が定着している北陸を足場に、たとえば氷見市出身の実業家浅野総一郎の縁で、農協間交流も進んでいる川崎市など、首都圏の拠点都市を突破口に、販売網を広げることができないか考えてみる余地はある。

先行して販売されている「氷見はとむぎ茶」は先ごろ、経産省と農水省による農商工連携事業の成功例「農商工連携ベストプラクティス30」に選ばれた。こうした連携事業が地域活性化につながった例はまだ少なく、「氷見はとむぎ茶」は、耕作放棄地の復元、1本売れるごとに5円を市に寄付するという地域貢献の取り組みが高く評価された。

金大と連携した今回の新飲料開発は、こうした農商工連携のひとつの到達点とも位置付けられるだろう。J A氷見市には、ゆくゆくは金大とともに、ハトムギエキスそのものを販売する企業を設立する構想があるようだが、そのためにも、新健康飲料の全国展開を積極的に進めていきたい。